

# 全国の防災担当者、注目せよ!!

予想される3連動地震などの大災害にどう備えるのか。全国の自治体をはじめ、すべての危機管理・防災関係者、国民に貴重な経験を伝えるとともに警鐘を鳴らす。

# 東日本大震災津波 —岩手県防災危機管理監の150日

【著】 越野 修三

A5判・定価2,200円（本体2,095円+税）送料290円 ※定価は5%税込価格です。

## 本書の内容

- 東日本大震災津波に直面した岩手県防災危機管理監が初めて明かす真実!
- 3月12日朝9時 ガレキのなか、陸上自衛隊第9師団2,229人、車両587台が被災地で早くも救援活動を開始できたのはなぜか。岩手県の学校施設で子どもに犠牲者が出なかったのはなぜか。
- 失われていく生命——。時間との闘い、積雪との闘い、食糧・物資不足との闘い、エネルギー不足との闘い、そして縦割組織との闘いが克明に記される。

## はじめに

「闘い」は突然始まった。東日本大震災津波との闘いである。平成23年3月11日、我が国災害観測史上でも類を見ないM9.0という地震と途方もない巨大な津波が岩手県の沿岸市町村に襲いかかり、死者・行方不明者約6000人、約2万4000棟の家屋が流失するという壊滅的な被害をもたらした。

かつて私は、阪神淡路大震災の時にも自衛隊の作戦部長として災害派遣活動をしており、現地で悲惨な状況を目の当たりにしたが、今回の被害の大きさは、想像を絶していた。肉親や友人を一瞬のうちに失い、家が流され、街のほとんどが消えてしまった。美しかった松並木や思い出さえもみんな流されてしまった。その喪失感、絶望感は阪神淡路大震災とは比べようもないくらいひどいものであった。

そうした中で、一人でも多くの人を救助し、被災者の不安を取り除こうと、被災地では、発災当初から自衛隊員、警察官、消防職員、医師や看護師、自治体職員等、多くの人が必死に、そして献身的にこの未曾有の災害と闘っていた。彼らの中には、自らが被災者でありながら、身の危険を顧みずに活動していた人もいた。また、岩手県庁の災害対策本部でも、職員が寝食を忘れてこの「闘い」に臨んでいたのである。5年前に、自衛隊から県防災危機管理監に転じていた私もその一人だった。

発災の日から、岩手県の災害対策本部支援室は図らずも私が実質的に指揮・統括することになった。被災地のため、被災者のために、無我夢中で自分のできることを精一杯やってきたつもりであったが、通信の断絶、道路の不通、インフラ機能の停止、燃料不足等のため、被害情報の把握、人命救助活動、被災者への支援物資の輸送など、その活動は困難を極めた。振り返ってみると、足らざる部分や不十分なことが数多くあった。しかし、その時その時の判断や行動は、その時点では迷いはなかった。よくも悪くも、自分の判断や行動に責任を持つことを発災の日に覚悟を決めていたからだ。情報が入らず、状況不明の混沌としている状況でも、誰かが判断し、行動を起こさなければならぬ。そうしないと組織は動かないからだ。長年、自衛隊で培ってきた経験がこのような大災害時に役に立ったと思っている。

この震災では、被災市町村の行政機能が失われたことから、発災当初に現地へ入った自衛隊の活動なくしては困難を乗り越えられなかったのではないだろうか。厳しい状況の中でも「そこまでやるのか」というぐらい、キメ細かい支援をしていただいた。もしも、自衛隊の運用がわかっている者が県庁内にいなかったら、こうも自衛隊との連携がスムーズに行われなかったかもしれない。

震災後、他の自治体や防災関係者から、これまでの災害対策本部支援室での「闘い」や教訓について話してくれという要望が数多く寄せられてきた。

本書は、東日本大震災と同じような大災害が起きる前に、少しでも私の体験がお役に立てればという思いで災害対策本部支援室を指揮・統括した立場から「闘い」における葛藤や問題点、教訓をまとめたものである。何かの参考になれば幸甚である。

平成24年4月

越野 修三

ぎょうせい



# 目次

口絵カラー 岩手県内沿岸被災地の震災前・後の空撮比較

推薦のこぼ 達増拓也(岩手県知事)はじめに

## 第1章 未曾有の巨大地震・大津波～発災からの8日間

3月11日(1日目)——帰 庁

- 巨大地震発生
- 混乱のなかの機転
- 自衛隊の災害派遣途中で帰庁
- つかめぬ被害規模
- 救援活動の始動

3月12日(2日目)——自衛隊の展開とヘリコプターによる救助・救援活動

- 救出を求めるひとびと
- 山田が、宮古が、大槌が

3月13日(3日目)——届けられない救援物資

- 救出・救援、山林火災、避難所支援
- 自衛隊災害派遣部隊司令部を県庁に設置
- 課題残した海外レスキュー隊の受け入れ

3月14日(4日目)——夥しい遺体処理のなか津波が再襲来?

- 遺体処理が追いつかない
- 情報錯綜のなかの引き潮騒ぎ

3月15日(5日目)——物資拠点設置するも縦割の弊害が

- 救援物資の集積拠点を増強
- 目立ち始めた縦割の弊害
- 孤立集落を救え!

3月16日(6日目)——積雪のなか深刻な燃料不足

- 雪のなか続いた必死の捜索
- 燃料不足と政治家のパフォーマンスに悩まされる
- 自衛隊との調整が円滑にできた「本音会議」

3月17日(7日目)——ローラー作戦(一斉捜索)

- もう1週間、まだ1週間

3月18日(8日目)——人命救助から生活支援へ

- ローラー作戦で区切りをつける

## 第2章 史上最大の作戦～自衛隊の救援活動と自治体の連携

- 陸・海・空3自衛隊10万7000人による救出作戦
- 被災地への展開
- 過酷な環境下の人命救助と行方不明者の捜索
- 72時間のカベ
- かつてない被災者への生活支援
- 自衛隊への感謝式

## 第3章 東日本大震災津波への対応とその教訓

災害対策本部はどう動いたか

- すばやく立ち上がった災害対策本部支援室
- 重要なオペレーションルームのレイアウト
- 困難極めた情報収集
- 縦割に固執する職員意識が危機を助長する
- 司令官と参謀の役割はどう違うか
- 状況は不明でも「兵は拙速を尊ぶ」のが基本
- 阪神淡路大震災の教訓—なぜ初動がうまくいかなかったのか

●大震災・大津波に備える4つのポイント

初動時に防災機関はどう動いたか

- 焦点だったヘリコプターの運用

避難行動と避難者への対応

- なぜ避難行動が遅れたか—津波警報が「安心情報」に

- 「津波でんでんこ」を思い起こせ
- 学校施設で犠牲になった子どもは一人もいない
- 多様な避難所へのきめ細かな支援
- 避難訓練から避難所運営訓練へ

支援物資の集積・配送

- 物流拠点を確保せよ
- 物資の調達、配分、輸送はこうして行われた

生命を救う医療活動

- 医療活動の状況
- DMATの活動
- 広域医療搬送訓練はなぜ必要か
- いわて災害医療支援ネットワーク
- ガレキと闘い日常を取り戻す

●ガレキ撤去・処理

●遺体捜索・処理

●広報活動

●行政支援と他都道府県からの応援

●インフラの状況

●災害対策本部の心得10か条

自衛隊の撤収と災害対策本部の廃止

- 自衛隊派遣の3要件
- 自衛隊撤収で市町村の自立を促す
- 災害対策本部の廃止
- 闘いの終わり
- 終わりになき闘い

## 第4章 岩手県防災危機管理監としての5年の日々

県庁文化との「闘い」

- 県庁文化への違和感
- 実践的な訓練へのこだわり
- 訓練中期計画の作成
- 総合防災訓練への取り組み—展示訓練から実践訓練へ
- 図上訓練へのこだわり
- スタッフからラインへ
- 相次いだ災害への対応

- 釜石市山林火災
- 岩手宮城内陸地震
- 岩手県沿岸北部を震源とする地震
- チリ地震津波

国との国民保護共同訓練

県議会及び各種会議等への対応

- 県議会への対応
- 防災会議
- 市町村防災担当課長会議

自衛隊との訓練及び自衛隊行事等への参加

- 自衛隊との訓練
- 自衛隊記念行事への参加

## 第5章 大震災津波の教訓を海外に

- オランダ・ハーグでの国際会議へ
- 注目集めたプレゼンテーション

## 資料編

- 1 東日本大震災津波の発生から2か月後までの災害・復旧状況等の概要
- 2 岩手県内避難所における避難者数の推移
- 3 岩手県内避難所数の推移
- 4 在避難所及び在宅通所の避難者数の推移
- 5 岩手県内避難者数と応急仮設住宅完成戸数との相関図
- 6 岩手県内避難所数と応急仮設住宅完成戸数との相関図
- 7 東日本大震災津波における人的・建物被害状況一覽
- 8 被災した避難所数
- 9 沿岸市町村職員の被害状況
- 10 東日本大震災津波で亡くなった消防関係者
- 11 警察官の被災状況

あとがき

## 著者紹介

### 越野修三(こしの・しゅうぞう)

元岩手県防災危機管理監(現岩手県総合防災室主任防災指導員)。陸上自衛隊第13師団で作戦部長として阪神大震災の際に神戸市で救援活動にあたったのち、岩手県庁入り。防災危機管理監を務めていた2011年3月11日、東日本大震災津波に遭遇する。消防庁「地域防災計画における地震・津波対策の充実・強化に関する検討会」委員。

商品に関するご照会・お申し込みは

フリーコール(通話料無料) 電話受付時間: 平日9時から17時

TEL: 0120-953-431 FAX: 0120-953-495

Web サイト

URL: <http://gyosei.jp>

キリトリ線

## 東日本大震災津波 一岩手県防災危機管理監の150日

A5判・定価2,200円(本体2,095円+税)送料290円 ※定価は5%税込価格です。コード 5107882-00-000 東日本大震災津波

◎上記のとおり申し込みます。御住所(〒 )

平成 年 月 日

[社費・公費・私費]

フリガナ 御氏名

TEL

e-mail

新刊情報を(希望する / 希望しない)

※お客様の個人情報は、契約の履行、弊社からの商品・サービスのご案内以外の目的には使用いたしません。



株式会社 ぎょうせい

本社 東京都中央区銀座7-4-12 7104-0061  
本部 東京都江東区新木場1-18-11 7136-8575  
TEL: 0120-953-431 / FAX: 0120-953-495

URL: <http://gyosei.jp>

●取扱者